

大阪市立大学医学部附属病院
研修医 2 年目 永森瑞城
(平成 29 年 12 月地域研修)

私が青森研修に五戸総合病院を選んだのは、「帝王切開など、やる気があれば手術参加可」という文言に惹かれてでした。実際、院長先生はできる限りの手術に私を参加させてくださいました。私は乳腺外科への入局が決まっていたのですが、初期研修での外科経験が少なく、手術手技がままならない状態で院長先生の助手をさせて頂いたのですが、助手どころか足を引っ張る一方でした。それでも院長先生は私の経験を少しでも増やそうと一生懸命ご指導くださり、私も必死についていきました。帝王切開では執刀もさせて頂き、井戸川先生の熱い指導の下、本当に貴重な経験をさせて頂きました。

五戸総合病院の先生方の病棟回診の丁寧さにも驚かされました。地域研修が始まってすぐの時、慢性期で安定している患者さんにこれ程までに丁寧な回診の必要性の有無について疑問を抱き、院長先生に質問したことがありました。「患者さんは常に不安であるからだ」と言われましたが、その時は理解することができませんでした。研修終盤になり、院長先生と患者さんの信頼関係の深さを目の当たりにした時その意味が理解できた気がします。

また、院長先生をはじめ、五戸総合病院で働いている先生方が、患者さんのためにできることは何でもする医師であることにも驚きました。ここでの研修を経験するまでは、それぞれの疾患を専門の科が担当する大学病院の医療を見てきました。しかし、五戸総合病院では専門に関わらず診療に当たり、さらにその技術が今まで自分が見てきた大学病院での技術とほとんど変わらないことを目の当たりにしました。例えば、手術などでは麻酔科医がいなくとも外科の先生が麻酔をかけたり、血液内科疾患の化学療法を外科の先生がされたり、消化器内科の先生が循環器疾患も診たり、手術や手技などの内容では腹腔鏡下の手術なども大学病院と同じようにやっていたり、自分が想像していた地域医療よりも幅広く、高い水準で医療ができる環境が整っていることを知り感動しました。「何でもする」医師の根底には、五戸の医療を支えるぞという熱い意気込みが感じられ、地域医療の本質を肌で感じることができました。

病棟業務では軽症から重症まであらゆる病態の患者さんを担当させて頂き、研修病院よりも自分に任されることが多く自分の知識の少なさを自覚することもありました。しかし、五戸の医療を担っているという責任感を感じながら診察にあたることで、どんな患者さんでも診断、治療しなければならないと思うことができ、今まで最終的な診断は専門医に委ねるとどこかで甘えた考えを持

っていた自分を省みることができました。

そして何より、医療のことだけではなく五戸総合病院のスタッフの方々はみなさん本当に親切で、1ヶ月間楽しく過ごすことができました。病棟では困っているとすぐに声をかけて頂き、何をやるにもすぐに手伝ってくれる看護師さんには本当に助けられました。事務の方々には寮の件などでとても気にかけて下さり、おかげさまで1ヵ月間快適に過ごすことができました感謝しています。また、院長先生やオペ看護師さんには何度も飲み会に誘っていただき、五戸のおいしい食べ物、お酒をいただきながら、楽しい時間を過ごすことができました。五戸には今まで縁も所縁もなかったのですが、五戸が好きになりました。

1ヶ月間と短い間でしたが、皆様に優しく親身に接していただいたおかげで本当に有意義で、自分の人生の中で忘れることのないかけがえのない体験をさせていただくことが出来ました。また、地域医療というものを通じて、自分自身のこれまでを振り返り、医療人として自分に何が出来るか、これからどうしていくべきかということを考える機会を与えて頂きました。

最後になりますが、本当に根気強くご指導くださった安藤先生をはじめ井戸川先生、佐藤先生、蝦名先生、他の先生方、看護師さん、事務の方々に改めて御礼を申し上げさせていただきます。本当にありがとうございました。